

「キリストが受け入れて下さったように互いに受け入れ合う」

ローマ 15：7-13

堀田修一 24・10・27

I 「ですから、神の栄光のために、キリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れ合いなさい」：7。

1. 神から離れた人間の罪は、いつでも、分割、分離、分断、分裂を生み出す。罪は人をその内側において分裂させ、自分を受け入れず、人を受け入れず敵対し分裂する。その結果、敵意、戦い、抗争、暴力、強奪をもたらす。神から離れ神に敵対する人間の歴史。昔も現在も。世界は罪によって損なわれている。

2. したがって、救いの中心的、壮大な御目的は、神に背く罪と墮落がこの恐ろしいまでの破壊、分裂を生み出す以前に存在していた神と人の一致、人と人の一致を生み出すために、主はこの世に来られ、この世を再び主において一つにし、再び主のもとに集め、主において人と世界（被造物）が回復し一つになる（完成は主の再臨による新天新地において）ために十字架につけられ、復活された。「その奥義（神の救いの御計画）とは、キリストにおいて神があらかじめお立てになったみむねにしたがい、時が満ちて計画が実行に移され、天にあるものも地にあるものも、一切のものが、キリストにおいて、一つに集められることです」（エペソ1：9，10）。

3. ユダヤ（イスラエル）人と異邦人（ユダヤ人以外の国の人々）は、受け入れ合わず、分裂、分断していた。しかし、主は十字架の御業により「私たち二つのもの（ユダヤ人と異邦人）を一つにし、ご自分の肉（全人の罪の身代わりに罪の刑罰を受けられた主の十字架のみからだ、流された聖なる血）において、隔ての壁（分裂、分断、不一致）である敵意（愛と正しい神への人間の間違った敵意、ユダヤ人と異邦人の敵意、私たちが違う意見の人の人格を受け入れない敵意）を打ち壊し、…キリストは、この二つのもの（受け入れない、敵対しているお互いを）ご自分において新しい一人の人（キリストのからだである一つの教会）に造り上げて平和を実現し、二つのものを一つのからだ（キリストのからだである教会）として、十字架によって神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました」（エペソ2：14-16）。

4. 主が欠点、罪、弱さのある私たちを十字架の恵みで受け入れて下さったように、私たちも互いに、性格、考え、意見、民族が違って、同じ恵みとまことに満ちた主と聖書を信じていることで、互いに赦し合い、人格を受け入れ合い一致を保つ時に、神の栄光（父・子・聖霊の一致、神の正しさと広い愛の素晴らしい性質）を現すことになり、その主にある一致（人の支配、カルト的洗脳による一致でなく）を見て、世の人々が主を信じるようになるのです。世界中の人々が主を信じ、戦争を止めるように祈りましょう！

II ユダヤ人への恵み「私は言います。キリストは、神の真理を現すために、割礼のある者たちのしもべとなりました。父祖たちに与えられた約束を確証するためであり」：8。キリストは、神の真理、真実を現すために、割礼のある者たち（ユダヤ人たち）のしもべ（ユダヤ民族に仕える者）

となられた。神がアブラハムをはじめ族長たちに与えられたもろもろの約束を確認するために。ダビデの家系からメシヤ誕生。

Ⅲ 異邦人（諸国民）への恵み

1. 「また異邦人（原語：民族、諸国民）もあわれみのゆえに、神をあがめるようになるためです。『それゆえ、私は異邦人の間であなたをほめたたえます。あなたの御名をほめたたえます』と書いてあるとおりです」：9。キリストは、異邦人（原語：諸民族、諸国民。ユダヤ人以外の全世界の民族、国民）に対する神のあわれみも現わされた。異邦人も、神の特別のあわれみ（主の十字架による差別のない救い）によって、神の民とされ、神を崇める者とされています。ユダヤ人も異邦人も等しく神の民とされ、神を崇める者とされています。それは神があらかじめ計画しておられたことで、旧約聖書にも「それゆえ、私は異邦人（諸国民）の間であなたをほめたたえます。あなたの御名をほめたたえます」（詩篇18：49）と記されている。イスラエル人、ユダヤ人の始祖であるアブラハムへの主の最初の約束は「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。…地のすべての部族は、あなたによって祝福される」（創世記12：1-3）である。最初の約束から「地のすべての部族（ユダヤ人も全世界の国の人々も）、あなたによって祝福される」とある。そして、その驚くべき深い真理がガラテヤ3：6-9で説き明かされています→『アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた』とあるとおりです。ですから、（主を信じる）信仰によって生きる人々こそアブラハムの子（霊的なイスラエル人）である、と知りなさい。聖書は、神が異邦人（諸国民）を信仰によって義とお認めになることを前から知っていたので、アブラハムに対して、『すべての異邦人（諸国民）が、あなた（あなたの子孫のキリスト・救い主）によって祝福される』と、前もって福音を告げました。ここで重要な事は、アブラハムに約束された「祝福される」とは、福音の祝福であり、主を信じる人が救われるという最高の祝福。イスラエル人も全国民も争わず主を信じ救われますように。
2. 「また、こう言われています。『異邦人（諸国民）よ、主の民とともに（主の救いを）喜べ』：10。「さらに、こうあります。『すべての異邦人（原語：諸国民）よ。主をほめよ。すべての国民が、主をたたえるように』：11。ユダヤ人と共にすべての国民が、主を信じ主をほめたたえるようになる。
3. 「さらにまたイザヤは、『エッセイの根が起こる。異邦人（諸国民）を治めるために立ち上がる方が。異邦人（諸国民）はこの方に望みを置く』と言っています」：12。エッセイはダビデ王の父であり、ダビデの家系からメシヤ、救い主が現れるという預言。しかもそのメシヤ、救い主は、ただイスラエル民族だけではなく、「異邦人（諸国民）を治めるために」来臨された。「異邦人（諸国民）はこの方に望みをかける」という言葉の中に、これまで多くの事を述べて来たパウロの主張がある。異邦人（全世界の国民）は、現在イエス・キリストに希望を置いている。それゆえ、ユダヤ人キリスト者も異邦人キリスト者も、神の救いの御計画と希望を互いに正しく理解して、心から互いに受け入れ合い、互いに暖かく交わることを神は喜ばれる。民族的、文化的相違、現在の私たちの聖書に明確に記されていない事での意見、考え方の相違は、もはや、神からいただいた人格を受け入れ合う一致を壊すものではない。※証し。

最後の祈り。「どうか、希望の神が、信仰によるすべての喜びと平安であなたがたを満たし、聖霊の力によって希望にあふれさせてくださいますように」：13。地上に生きている間は、私たちが、キリスト者であっても、「世にあっては苦難があります」（ヨハネ16：33）。今も辛い中にある方が多くおられます。しかし、苦難、試練の中で力強く語られる主が、いつもともにおられます。「いつでも祈るべきで、失望してはいけない」ルカ18：1。※証し。本日の最後の祈りでも「希望」が強調されている。この希望の神は私たちに二つの祝福を与えられる。

- ① 「喜びと平安で満たして下さる」。私たちの心には悲しみと不安がある。主を信頼し、互いに愛を持って受け入れ合う時、辛い現状も神の御手にある意味のある事と受け入れる時、神は私たちの心を喜びと平安で満たされる。
- ② 聖霊の力によって希望にあふれさせて下さる。信仰と愛の主にある交わりの中に、聖霊は豊かに働かれる。その時、私たちは主が最善にして下さるといふ希望にあふれる。まことに、違いを受け入れ合う主にある愛の一致こそ、喜びと平安と希望の礎です。応答の賛美251「心を合わせ（愛の一致を下さる）主の御名を崇めよう」。